

THE BOSUI JOURNAL

# 防水ジャーナル

ROOFING/SIDING/INSULATION/RENEWAL

# 8

2020

No.585



特集

- 環境対応型アスファルト系防水の現状
- 建築地下防水の未来

# 不審者侵入の足がかり

鈴木 哲夫

(有)鈴木哲夫設計事務所 代表取締役

建物屋上の点検時に使用するため、外部階段または外廊下の最上階に、ハッチやタラップを取り付けているケースがある。いずれも自由に侵入できないように、ハッチは施錠し、タラップのステップ部分はパネルで覆うなどの処置を施しているが、中には、防犯上たいへん無防備なタラップもある。

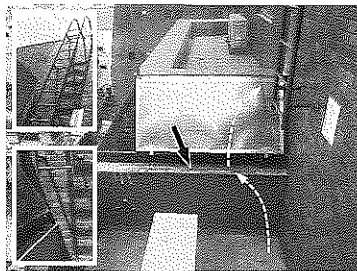


写真1 腰壁手すりに足を掛ければ容易に昇降できる低いタラップ

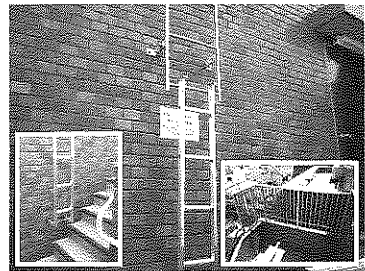


写真2 移動したタラップ位置、補助タラップ（左下）、防犯・安全フェンス（右下）

写真1は、マンション最上階の階段踊場に設置されたタラップの状態である。タラップは腰壁の直上にあり、矢印部分に足をかけるだけで容易に昇降できる。また、隣接するルーフバルコニーは、侵入できないようにパネルで覆っているが、昇ったタラップから飛び移ることもできる。日頃から、屋上に出入りする不審者がいるとの通報が度々あり、捨てられていた吸い殻の状態から、どうも喫煙のために屋上を頻繁に使っているようであった。

そこで、改善を図るため、図のように既存のタラップの位置(A)を、階段腰壁から離れた場所(B)まで移動することにした。ただし、階段の通行の邪魔になることや、階段部自体が足がかりになることを考慮して、タラップの最下端が2m以上の高さに来るように設置し、屋上の点検時には、写真2のように補助タラップをひっかけて昇降することにした。

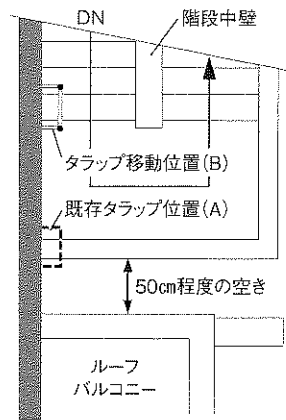


図 タラップの設置位置

また、ルーフバルコニー側のフェンスは、タラップからの侵入を防ぐ、防犯と安全確保のために取り付けられたものだが、取付け部の破損があり、写真2右下のような縦格子フェンスに更新した。

ところが、それでも侵入上の盲点が残っていたのである。改修工事の完成直後に、屋上に不審者が侵入していると住民から警察への通報があり、大騒ぎになった。

見分によると、侵入経路は階段の中壁に足をかけて、写真3の矢印部分のようにタラップに飛び



写真3 中壁からタラップに飛び付いて侵入

移ったものとされた。スポーツライミングのボルダリングのように身軽な動きができれば、確かにタラップに手は届く。そこで、取り付けたタラップのステップユニットの下部約1mを取り外し、アスリートレベルが飛びついても届かない高さとした。

これならば侵入されないだろうと思われる高さであっても、飛びついて手が届く状態であれば、実際には楽々と侵入ルートになってしまう。アスリートまがいの人間であれば造作もない、といった盲点をつくらないようにしたい。ちなみに侵入者は、兵役経験でもあったのか、賃貸入居の外国人だったそうである。